むすびプロジェクト

「むすびプロジェクト」は当グループのリハビリ病院を退院された患者様が、
その人らしく生きいきと生活していただけるよう、支援するための取り組みです。
今回はその取り組みのひとつをご紹介いたします。

第4回 むすびプロジェクト研修会 | 看護師が同行する家屋調査から退院後の生活支援を考える

2025年2月に第4回むすびプロジェクト研修会が行われました。原宿リハビリテーション病院の回復期リハビリテーション看護師　小林副師長が『看護師が同行する家屋調査から退院後の生活支援を考える』をテーマにした講演に総勢1000名のグループ病院職員が参加しました。私たちは、実際の家屋調査の事例を通じて、看護師が積極的に関わることで、より良い生活支援ができることを改めて実感しました。退院後も安心して暮らしていただくためには、お一人おひとりの生活環境に合わせたサポートが大切です。

家屋調査で得られた情報をもとに、安全で快適に過ごせる環境を整えるお手伝いをすることで、患者さんやご家族の不安を少しでも和らげられればと思っています。

むすびプロジェクトでは、これからもこうした取り組みを大切にしながら、皆さんの暮らしに寄り添った支援を続けてまいります。

ホームページのご案内

病院の詳しい内容は、ホームページでご覧いただけます。
ぜひご参照くださいませ。
グループ病院ホームページにもリンクできます。

原宿リハビリテーション病院　検索
https://harajuku-reha.com/

SNSのご案内

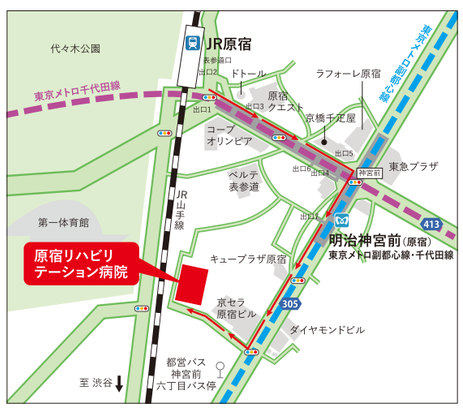
看護部
Instagram
@HARAREHA_KANGOBU_RECRUIT

リハビリテーション科
Instagram
HARAJUKU_REHA

TikTok
@harajuku_rehabilitation

原宿リハビリテーション病院　広報誌
原宿タイムズ
HARAJUKU TIMES
Vol.30
令和7年6月発行

カマチグループ
原宿リハビリテーション病院
日本医療機能評価機構認定病院
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-26-1
TEL 03-3486-8333／FAX 03-3486-8334



■原宿駅　表参道口（JR山手線）より徒歩8分
■明治神宮前（原宿）駅　7番出口（東京メトロ副都心線・千代田線）より徒歩5分

企画・発行所：原宿リハビリテーション病院　広報委員会

原宿リハビリテーション病院　広報誌

原宿タイムズ
HARAJUKU TIMES

コンテンツ

P1：入職式
P2：カンボジア研修/病棟だより
P3：入職者紹介
P4：新人研修/プリセプター制度/ソフトボール大会
P5：行事食/医事課からのお知らせ/ひな人形と五月人形
P6：売店のご紹介/入院面談/防火・防災訓練

Vol.30

令和7年度

入職式

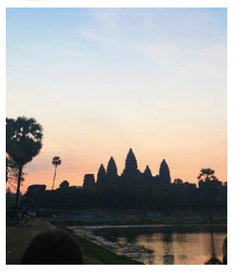
原宿リハビリテーション病院として渋谷区に開院して11年目の春を迎えました。
令和7年4月1日に令和7年度入職式を執り行いました。
医師1名、歯科医師1名、リハビリテーション科54名、看護部14名、入退院支援センター2名、歯科2名の総勢74名の新しい職員をお迎えいたしました。
松谷院長からは、開院して丸10年が経過してまた新たな10年が始まること、入職式当日は気温が上がらなかったため冬の装いでの入職式となったこと、原宿リハビリテーション病院の一員として一緒に看板を背負って頑張りましょうといったお話しがありました。
それから辞令交付、病院四役や所属長の紹介と進み、新入職の皆さんは緊張と希望の入り混じった表情で式に臨んでいました。
「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」の理念のもと、これまで同様にリハビリテーションを中心とした地域医療に貢献してまいりたいと思います。

総務課　田中

カンボジア研修

令和7年2月20日から24日にかけてカンボジア研修に参加し、アンコール小児病院を見学してまいりました。カマチグループの他の関連病院からも多くのスタッフが参加しました。
アンコール小児病院があるシェムリアップ地域には小児病院が2つしかないため、1日に400人もの患者が訪れます。しかし患者の数に対し、医師やリハビリテーションスタッフなどの医療従事者の人数はまだまだ少ない状態であり、限りある時間と資源の中でできる限りの医療を行う現場の工夫を垣間見ました。
病院内は想像より綺麗で、自炊を行う場所や病院内に畑が完備されているなど、日本との違いも多く知ることができました。その中でも、なにより一番印象的だったのは子ども達の笑顔でした。
また、世界遺産のアンコールワット、タ・プローム、オールドマーケットなどカンボジア観光もすることができました。崩れ行く遺跡の壁画にカンボジアの歴史が刻まれており興味深かったです。
現地の医療や、異文化、カンボジアの歴史に触れ、貴重な体験をさせていただきました。

理学療法士　稲垣・芦澤


アンコールワット

タ・プローム遺跡

クメール料理

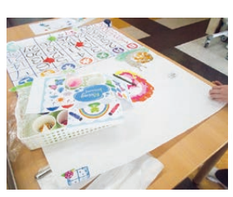
※アンコール小児病院は、アンコール遺跡のあるカンボジアのシェムリアップ市に、1999年1月に開院しました。
ニューヨークに本部を置くフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー（国境のない友達）の最初のプロジェクトとして建設された病院です。
原宿リハビリテーション病院が属するカマチグループの、創設者である蒲池眞澄は医療顧問として尽力し、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーへの支援を続けています。

病棟だより

4階病棟

4階病棟では、レクリエーションの一環として6月のカレンダーを患者さまと作りました。色紙を貼ったり、日付を書いたり、患者さまがとても楽しそうに取り組んでいらっしゃる姿が印象的でした。
毎日のリハビリテーション以外にも、患者さまが楽しんで過ごしていただけるようレクリエーションを今後も企画・実行してまいります。

クラーク　森



7階病棟

7階病棟では、患者さまと一緒に季節ごとの飾りつけを行っています。今回は、春にちなんで桜やかぶとの絵の色塗りをしたり折り紙をしたりして、できあがった作品をデイルームに飾りました。
患者さまからも笑顔がこぼれ、ひとつの作品が完成する達成感を味わっています。ご入院中でも、患者さまに季節を感じていただけたら幸いです。

クラーク　菊地